

医会からのメッセージ

ようこそ神奈川県皮膚科医会へ!

このページは、医会のホームページからの転載です。ご一読ください。

皮膚科医の方へ

会則にもありますように、われわれの医会は神奈川県内で診療や研究などに従事する皮膚科医が中心となって組織されています。すでに会員として様々なアクティビティーに参加されておられる方とは、引き続き「ともに学び、ともに楽しむ」医会ライフをエンジョイしましょう。例会などに参加されない会員には事情がおりでしょうし、神奈川県におられながら未入会の皮膚科医は当医会の存在をご存じなかったのかもしれませんが。学問にとどまらず、実地診療で遭遇するさまざまな疑問や問題点、さらには一般生活にいたるまで仲間と話し合う場が医会です。情報を交換して、知識を増やし、技術を高め、感性を研く。活動はあくまでも個人の自由意志によるものですが、共に自らを磨き、律する心を養おうではありませんか。

皮膚科以外の医師や歯科医、薬剤師、看護師など医療に従事される方々へ

医会は学術団体であり、皮膚科医の親睦や共益を図るためだけに存在するものではありません。医療を通して社会全般に貢献することを目指しています。皮膚科医のレベルアップを目指した研修機会を設ける一方で、往診をはじめとした在宅医療や学校専門相談医など地域医療にも積極的にかかわっています。さらに、様々な分野からの皮膚科講師派遣要請に応える体制を整えました。看護や介護などの職種からは、「皮膚がQOLを維持する大切な臓器であること」「子供から高齢者まで各年齢に応じたケアの仕方があること」は分かっているが、詳しく具体的に教えてほしい、歯科を含めた他科の医師からは「金属アレルギーなど、原因のみつけ方を教えてほしい」などといった要望が寄せられますが、講師を探せない地域もあるようです。医会では“広報委員会”・“在宅医療委員会”・“学校保健委員会”を中心に最適な講師を探して派遣いたしますので、どうぞ遠慮なくお問い合わせください。

製薬業界や医薬品流通業界の方へ

法人会員の方々には、総会や例会のご案内に加えて、機関誌「神皮」などで医会の活動を報告しています。また、年に3回開催している例会は皆様にとっても有益な内容が企画されていることと思います。共催されるとき以外でも法人会員として遠慮なく参加していただき、医会の活動が皆様同士や皆様と皮膚科医の共通認識を培う機会になればと思います。また、皆様が開催されるさまざまな講演会や勉強会は重要な生涯学習の機会であり、より有意義なものになるよう企画段階から協力させていただきたいと考えています。

最後に“われわれの活動や考え方”をもっとも伝えたい一般の方々へ

皮膚は肉眼で見える臓器ですから、異常があれば誰の目からも分かります。ということは、何かが起こったときに必要なのは血液などの検査よりも、まず熟練した医師がじっくり詳細に診察することなのです。神奈川県皮膚科医会では、皮膚科医に求められる“眼”を養い、知識を増やし、技術を向上させるための生涯教育に力をいれています。皮膚に何かが起こったときには、迷わず皮膚科医を訪れてください。

皆様に、皮膚のことをもっと知っていただきたいと思います。皮膚は内臓に起こった病変を表すことがあり、「内臓の鏡」ともよべれます。皮膚の変化が手がかりになって、重大な内科疾患が発見されることがありますが、なんと内科の症状よりも皮膚症状のほうが先に出ることもあるのです。一方で、全国の高齢者を調べた結果、湿疹や感染症などによる皮膚のトラブルが“QOL”を大きく悪化させているというデータがあります。内からも、外からも、皮膚とは上手に付き合っていたいただきたいと思います。

医会では市民の皆様が皮膚に関する正しい知識と対策を理解していただくために講演会を開催する一方で、勉強会などに講師を派遣するシステムをつくっています。ご希望があれば適した講師を紹介することが可能ですので、気軽にお問い合わせください。また、寝たきりや介護力の事情から通院できずに皮膚病で悩んでおられる場合は、ホームページの地域別「往診皮膚科医リスト」から探してください。

神奈川県皮膚科医会は、“皮膚のことは皮膚科に任せなさい!”と胸を張って言えるように、新しい知識や技術をはじめとした皮膚科の研修と医療の向上に努めています。そして、生まれてから生涯続く皮膚との付き合いを通じて、皆様の健康生活を応援してゆくために活動しています。

巻頭言

*

人生のロスタイム



本田光芳

日本医科大学では、毎年3月の第1土曜日に、定年退職教授による記念講演会がある。元同僚、後輩教授に対するエチケットと心得て、私は毎年出席している。今年の定年退職教授は8名、来年は10名、再来年は8名、大幅に世代交代となる。次の新任教授達は、多分私の講義を受けたこともない、顔も知らない人達であろう。学長、理事長、同窓会会長は例年の如く“先生におかれましては、未だ真にお若く、お元気で第二の人生を”などと、齒のうくような祝詞を述べているが、私立医科大学の常、長年の労働力搾取の結果、よれよれで痛みきった退職教授がいなかったわけではない。しかし、例年と異なり今年の定年退職教授8人は、とても若いなあと羨望の眼差で眺めていた。つらつら思うに、これはどうも、私自身が定年退職後15年、昨年頃から急に老化が進行したという自覚からかもしれない。

例年11月末に、持田製薬から私の名前入りの手帳を貰う。在職中の同社に対する私の貢献によるためか。それにしても退職後丸15年、すでに前世紀の遺物と化しつつある私に、わざわざネーム入り手帳をくれるとは真に律儀なこと、感謝感激である。私はこの手帳をこよなく愛しており、平成24年は勿論、26年までの学会、海外旅行、海外オペラ旅行などの計画を、診療の合間丹念に書き入れ、ひとり悦に入っている。ただ昨年暮、この年中行事をしながら、ふっと気付いた。80歳をこえて明日をも知れぬ我身でありながら笑止千万、傲慢で限りなく凶々しい。2年後の海外旅行計画なんて。男性の平均寿命は79歳6ヵ月、今や私は人生のロスタイムに突入した。いつ試合終了のホイッスルが吹かれても不思議ではない。ひょっとすると、鋭く鳴ったタイムアウトのホイッスルが難聴で聞こえなかったのであろうか。

最近、学会の意見交換会と称するへんてこりんとか、妙ちきりんな名前の会で、多くの方と「先

生、まだ診療してんですか」、「はい、してますよ」、「それは素晴らしい」、「チママですよ」などと真摯にとんちんかんな意見交換をしている。諸先生の御質問のお手間を省くために記すると、私は現在、3ヵ月に1回余目、月に1回横浜クイーンズスクエアと青戸、月に2回相模原、週2回目黒不動前（月、火）の5ヵ所で、週平均3日、1日平均3.5時間のパート医をしている。これを私はチママ的皮膚科医と誇称して止まない。客寄せパンダの柄でもなく、またすでに、賞味期限切れの私にこのような働き口があるということは、医師不足のせいというよりも、雇い主の温情と寛容の心由来するものと、口にはださないが内心は感謝の気持ちで一杯である。

チママの合間を盗んで年3回は海外旅行をする。音楽、とくにオペラとドイツ歌曲が大好きで、気に入ったプログラムがあれば国の内外を問わずでかける。音楽のCDは2,000枚、エアチェックしたMDも2,000枚を越えた。こんなにためてどうするのだ。定年退職後、ドイツ語の詩の朗読に執念を燃やし、果ては某洋菓子会社主催によるゲーテの詩朗読コンテストに応募した。テープ審査の結果、400名の中から私もファイナリスト25名の中に選ばれた。本選会は2007年8月25日、800名満席の津田ホールで、私は優勝と副賞のバウムクーヘン1年分を狙って、Egmontの独白を熟演した。しかし、なぜか若い美女ばかりが入賞、悔し紛れに審査の公正性を疑った。でも落選のおかげで糖尿病が悪化しないわよと女房に慰められた。このリベンジはドイツでと、一昨年Weimarでの日独皮膚科学会のパーティー席上で、H. HeineのDoppelgängerを熟演爆読、ドイツ人達の拍手喝采、スタンディングオベーションを受け、ようやく溜飲を下げるのができた。神奈川県皮膚科医会の諸先生、こんな私ですがゲームオーバーも近いこと故、今暫く我慢してお付き合いの程を。